

採
点
欄

令和三年度入学試験

国語 解答紙(その1)

| | |
|---|----|
| ア | 固執 |
| イ | 膨 |
| ウ | 喪失 |
| エ | 媒体 |

自分が環境の中に残した痕跡を集め、自分が見失った自分の置かれた状況を復元する作業だ、ということ。

「客観」と「実感」のギャップとは、客観的な事実と実際に起こったことに対して感じるリアリティーの差であり、大城さんはそれを想像力を用いて「ありえたかもしれない出来事」のイメージを膨らませ、自分で楽しみながらストーリーを作っていくことで埋めた。

通常のおひとりさま単位での鑑賞

光を通して目にうつる外界の瞬間的な像に注目して描かれるため、物の姿を固定的に捉えることができず、見る人間の側の「意味」や「解釈」が必然的に介在する、という本質。

X 当事者が第三者になることで、喪失の苦しみを創造の楽しみに変えている点。

Y 目で見るとよりも解釈に至るプロセス・経験を共有することで、目を見た以上に絵画の本質に迫り着く点。

| | | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|--|--|---|---|--|---|--|---|
| 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 | | | |
| いと 考 え て い る 。 | 目 指 す 水 な け 水 は な う な | 共 有 す る こ と が 目 指 す 水 な け 水 は な う な | 他 者 の 存 在 が 必 要 で あ り 、 共 に 経 験 | 水 も 受 け 入 れ 、 共 に 創 り 上 げ | そ う し た イ メ ー ジ の 転 回 も た ら ず に は | し て 捉 え る ベ き だ と 主 張 し て い る 。 | 創 造 の 源 泉 と い う ポ ジ テ ィ ブ な イ メ ー ジ と | テ ィ ブ な イ メ ー ジ と し て は な く 、 新 た な | 學 者 は ハ ン デ ィ キ ャ ッ プ の 喪 失 と い う ネ ガ |

氏名

受験番号

合計点

採
点
欄

令和三年度入学試験

国語 解答紙(その2)

| | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| 氏名 | | | | | |
| 受験番号 | | | | | |

| | |
|-----|--|
| 合計点 | |
|-----|--|

| 問一 | 問二 | 問三 | 問四 | 問五 | 問六 | 問一 | 問二 | 問三 | 問四 |
|--------------------------------|---|--|-----------|--|--|---|--|---|----|
| <p>① ご覧になる</p> <p>② めったにない</p> | <p>あら ラ行変格活用「あり」未然形</p> <p>らん 現在推量の助動詞「らん」連体形</p> <p>んず 推量の助動詞「んず」終止形</p> | <p>この鳥は蚊のまっげに巢を作る小さな虫やムクドリのように大空を飛び回り矢が通 用しない相手とは異なり、目に見えるほどの大きさで矢も届くところにいるから。</p> | <p>対句</p> | <p>怪鳥が鳴くたびに吐き出す炎が稲光のように見えるため大方の見当をつけ、近づい た後は鳴き声で居場所を定めた。</p> | <p>(イ) 万が一放たれた矢が紫宸殿の屋根に刺さるのはあってはならないことであり、 そうならないため、矢を放つ際に雁股をはずす広有の冷静さ。</p> <p>(ア) 帝や貴族をはじめ様々な身分の人々の見ている前で怪鳥を一撃のもとに射落と したこと。</p> | <p>① か</p> <p>② かつ</p> <p>③ なんぞ</p> <p>④ あたは(わ)</p> | <p>水仙は秣陵のものが最良であり、筆者は水仙を自分の命と同様に考えているか ら。</p> <p>(イ) むしろ自分の寿命を一年短めても、一年の四季の花を見る機会を減らしてはな らないということ。</p> <p>(ア) 寧ろ一歳の寿を短くすとも、一歳の花を減ずる勿かれ</p> | <p>筆者は水仙を見ようと雪の中わざわざ秣陵に帰ってきたのであり、このまま水仙を 見ることができなければ、他の街で春を迎えるのと変わりはないという切実な訴え が家族に聞き入れられ、筆者のかんざしと耳飾りを質に入れ水仙を買う許しを得た。</p> | |